

## 自由論題 7 東アジアの経済 報告 2

柳学洙（日本学術振興会特別研究員 PD）

### 「北朝鮮の工業配置と企業間ネットワーク」

本稿の目的は、北朝鮮の工業企業配置と企業間ネットワークを、企業レベルデータを用いて統計的に分析することである。北朝鮮の社会主義工業化に関する研究は多数あるが、同国の工業配置を主なテーマとした研究は非常に少ない。さらに、統計データに基づく実証的な分析を行った研究は皆無に等しい。

北朝鮮の経済研究において工業配置とそのネットワークを分析することは、同国の経済開発戦略とその実態を明らかにする上で重要な意味を持つ。だが、公表された北朝鮮の統計資料が極めて少ないために、このようなテーマで実証的な研究を行うことは難しかった。

しかし、マイクロデータセットを用いて北朝鮮の工業配置の分析を行うことは不可能ではない。1980年代末に北朝鮮の教育図書出版社が刊行した『朝鮮地理全書』には、北朝鮮の各行政区域に所在する企業が多数掲載されており、これを用いて企業レベルデータセットを作成することができる。筆者はこの作業を行い、北朝鮮の西部地区にあたる 6 行政区域－平壤・平安南道・平安北道・黄海南道・黄海北道・慈江道の企業データセットを作成した。そして、1980年代における北朝鮮の工業企業配置と企業間ネットワークを実証的に分析した。

分析の結果、北朝鮮指導部が全国的範囲で工業企業の均等配置を強力に推進したことが、全体の傾向として明らかになった。工業部門別にみると、企業の均等配置傾向は、軽工業部門および機械・建材・化学部門で顕著に観察されたが、鉱業および金属産業、電力産業では均等配置は大きく進展しなかった。また、企業間ネットワークについて見ると、均等配置が進展した工業部門では、地域内の自給自足を目的とした企業が多く観察された。一方で、均等配置が進展しなかった分野の企業は、多数の地域と企業間ネットワークを形成していた。このような観察結果は、北朝鮮の工業化の実態を分析する上で、有用な知見を提供するものである。